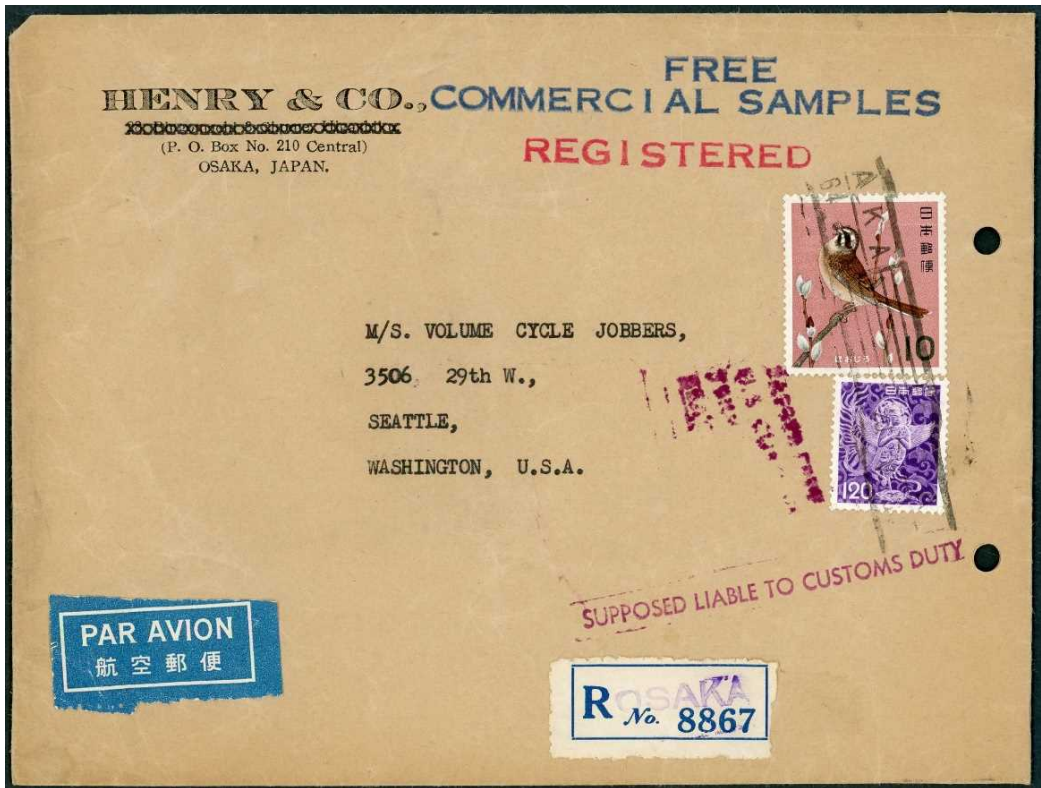


書留扱いの商品見本便

永吉 秀夫



書留扱い第2地帯あて2倍重量商品見本航空便 OSAKA 1964. 5. 20 → 米国
料金 130 円＝商品見本 40 円×2＋書留料 50 円

かつては外国あての郵便に商品見本という種別がありました(1971年7月1日廃止)。販売用の商品ではないので関税などかけないでね、ということでしょう。それでも税関による検査はあって、その検印が郵便物上に残されます。料金はほぼ「印刷物」と同等でしたが、少し割高に設定されていた時代もあります。

紹介品は2倍重量で書留扱いをつけたために料金が高額となり、当時の高額普通切手「120 円けまん」を活用した混貼となりました。差額の10 円分に記念切手(鳥シリーズ「ほおじろ」)が使われていますが、収集家便ということはないでしょう。

上述のようにこの商品見本便には税関の検印が付きませんが、紹介品もご覧(右写真)のようになかなか賑やかです。入手しがたい120 円けまんの使用例として。それなりに貴重なものと言えるでしょう。



裏面